

- ・協定校関係 …………… (1)
- ・協定校との交流 …………… (2)
- ・留学生行事 …………… (3)
- ・国際交流センターから …… (4)

スラナリー工科大学と協定締結

8月17日、タイのバンコクで山本文雄理事（兼）副学長が学術・教育および学生交換に関する覚書に署名し、本学とスラナリー工科大学（SUT）による大学間協定が締結されました。SUTは1990年に設置されたタイ国立の理工学系大学ですが、医学部や看護学部の医療系の学部も構成されており、医理工連携が強化されています。SUTとの交流促進は今後の秋田大学医理工連携の発展にもつながっていくものと期待しています。

SUTとの国際交流は、2014年に（株）北都銀行の補助を受け、SUTの研究者（Naruemol Singha Dong講師）が本学医学部保健学科に紹介されたことからはじまりました。その後、地域の高齢者に関する調査研究を目的にテレビ会議などで直接連絡を取り合い、相互の交流を深めてきました。また、2015年3月には私と佐藤国際課長がSUTの看護学部を訪問しました。訪問の際には、共同研究に関する打ち合わせと共に、今後の展望として教員の交流や学術研究の交流・協力について前向きに検討されました。

医学部保健学科では、保健学分野の教育および研究活動の強化を図るため、近年、アジア諸国との学生交換、国際シンポジウムや共同研究をすすめています。これらの取り組みが推進される中で、国際交流を希望する学生が増えてきました。保健学科は、今回のSUTとの協定によってグローバル化に対応した教育および研究活動の強化を継続すると共に、グローバルな視点を持った医療専門職を養成していきます。

（久米 裕：Kume Yu 大学院医学系研究科保健学専攻 助教）



ガジャマダ大学と協定締結

平成27年6月、秋田大学はインドネシアのガジャマダ大学と学術交流協定を締結しました。

ガジャマダ大学は、インドネシアの古都ジョグジャカルタにあるインドネシア国内最大の総合大学で、インドネシアの大学の中でも5指に入る高い評価を受けています。ジョグジャカルタはジャワ島中央部にあり、王宮を中心とした町並みとともに、周辺のポロブドール遺跡、プランバナン遺跡（どちらも世界遺産）への拠点として知られています。ガジャマダ大学は多くの日本の大学と学術交流協定を結び、日本人留学生も多数受け入れています。

ガジャマダ大学は、アセアン各国の教育省から選出されたアセアン大学ネットワーク(ASEAN University Network/AUN)の構成メンバーであり、日本政府の国際公約として実施されているJICAによるアセアン工学系人材育成事業（AUN-SEEDNet）においては、資源工学・地質工学分野の拠点大学に指定されており、アセアン各国の大学からの若手教員、大学院生をガジャマダ大学で受け入れて修士課程、博士後期課程の英語プログラムで教育、研究指導を行なうことにより、資源学関連分野の人材育成を行なっています。アセアンの中で資源工学・地質工学分野の拠点であるガジャマダ大学と連携して、教育・研究を推進することは、本学における研究活動、国際交流、研究者・技術者養成を促進するためにきわめて重要と考えられます。資源大国であるインドネシアとの関係強化は、本学の学生派遣先との提携にも有益であり、今後の秋田大学の発展、日本の国益にもきわめて重要と考えられます。

（今井 亮：Imai Akira 国際資源学部 教授）

大連民族大学一行の訪問

6月23日、協定校の大連民族大学から、王曉慧国際交流合作処長、劉俊民外国語学院副院長、劉影国際交流合作処職員一行が秋田大学を訪問されました。大連民族大学は、中国東北地域の港湾都市大連にあり、校名のとおりに少数民族出身の学生の割合が高いという特色があります。大連には日本企業の工場や営業所も多く、日本に留学した学生をはじめ、日本語学科の学生の多くがこうした日系企業に就職しています。

本年度は秋田大学と大連民族大学が協定を締結してちょうど10年目にあたり、一行は5年ごとに行われる協定の更新のために来秋されました。一行はまず澤田学長を表敬訪問し、これまでの両校の活発な交流や近年の状況について確認しつつ、今後のさらなる発展について意見交換しました。懇談後、4月から秋田大学に留学している同大学の留学生と面談し、学習状況や日常生活について説明を受けました。

私は2年前に大連民族大学の担当を引き継いだため、同大の関係者とはまだ面識がありませんでしたが、今回のご訪問で学長との懇談や昼食会、また学内移動に同行し、顔合わせと貴重な情報交換をすることができました。こうしたつながりを今後も深めつつ、交流の仕事に役立てることができればと思います。



（内田 昌功：Uchida Masanori 教育文化学部 准教授）



蘭州大学第一病院医師・看護師の受け入れ

平成27年8月24日から26日までの三日間、医学部附属病院にて蘭州大学第一病院の研修団の研修を行いました。附属病院におかれましては極めて忙しい中、快く真摯に対応していただき有難うございました。研修団には非常に感謝していただき、実りある研修であったと高い評価をいただきました。今回の研修をお願いするにあたり、澤田学長も私も、医学部附属病院をお願いするばかりでは申し訳ないということから、3時間ずつ研修の講師を引き受けることとし、これまでの専門分野の講義を務めることと致しました。私は、心臓血管外科領域の話をしたしましたが、研修団の方々の中に麻酔医がおられ、かなり専門的な見地からの質問をいただき、熱心な討論を行い、充実した研修を提供できたのではと自負している次第です。中国はいま世界第2の経済大国ですが、医療の分野では、まだまだ日本がリードしている状況で、色々な職域の方が日本の医療を学ぼうとしているのが現状です。このように評価の高い研修を提供できたことは、今後ますます中国からの研修の申請が増加するものと想像します。今回、附属病院のスタッフの方々には無理なお願いで恐縮でしたが、今後もできるだけお引き受けいただき、医療分野からの国際交流を積み重ねていただけたら秋田大学も世界に貢献する大学としての実績をあげることができるのではと考えている次第です。

(山本 文雄 : Yamamoto Fumio 国際交流センター長)



王立ブータン大学教員・学生の受け入れ

9月30日、王立ブータン大学健康科学院の教員2名と2年次学生（ブータンの看護学コースは3年制）4名が自治医科大学での研修を終え、新幹線で秋田に到着されました。本年度は8月31日から9月2日まで短期間ですが、秋田大学保健学科、大学附属病院での研修に加え、学生は金足地域センターでの「秋田市体づくり教室」に参加し、その間教員は附属病院内の「がん緩和ケアセンター」で、がん医療や患者ケアに関する情報交換をしました。さらに老人保健施設「くらかけの里」にて看護、介護やリハビリテーションの実際を見学して頂きました。最終日は保健学科の学生が「秋大での学習内容や学生生活」を紹介し、ブータンの学生と資格取得や看護教育について両国間の違いを話し合い、積極的に交流を図りました。今回の研修はスケジュールが非常にタイトなものでしたが、ブータンの学生が保健学科の実習室を見学した際に、説明を真剣に聞き積極的に実習を体験する姿勢が特に印象に残りました。



学生との交流会



保健学科実習室で研修

(山口 典子 : Yamaguchi Noriko 大学院医学系研究科保健学専攻 准教授)



王立ブータン大学での短期研修

ブータンでは「主張することの大切さ」をあらためて学びました。学生は全学生・教員の前で定期的に主張（スピーチ）をします。人生のこと、読むことの大切さなどの内容でした。このときの態度や内容でリーダーを決めるとのことです。子供の頃から大人の前で主張するそうです。日本には、主張する文化、機会はあるでしょうか？自分の考えを主張できるでしょうか？主張する意欲はあるでしょうか？ブータンの学生は学ぶことに貪欲です。ブータンは発展途上国なのでないもののほうが多いですが、人々はすべての人生を楽しんでいます。日本は何でもありますが、人々は人生を楽しんでいるでしょうか？ブータンでしか学べないことがたくさんありました。



(眞壁 幸子 : Makabe Sachiko 大学院医学系研究科保健学専攻 講師)

ブータンの医療の実情や看護教育、またこの国の特徴とされている幸せへの価値観について学ぶべく研修に参加させていただきました。医療・看護教育に関しては、文化や経済事情など様々な考慮する点がある中で、良い点、改善が必要な点、秋田大学との違いなど多くを学ぶことが出来ました。また、ブータンの人々は皆とても親切でした。資源やお金などにはなく、人と人との繋がりや関係をととても大切に、その中に幸せを見つけないという考えが浸透しているため、ブータンの人々は幸せと感じる人が多いと感じました。最後に、秋田大学の先生方、現地の先生や学生など多くの協力により無事に研修を終えることができましたことに感謝いたします。

(長澤 悠平 : Nagasawa Yuhei 医学部保健学科3年次)



長澤悠平 (左)

ブータンの研修に参加し、学んだことは大きく分けて2つあります。1つ目はブータンの僻地医療体制で、高齢化が進む秋田県でも取り入れるべき対策が多いということです。ブータン特有の風土や文化に合わせた医療も提供しており、実際に車が入れないところまで徒歩で患者の元へ出向くという姿勢が素晴らしいと感じ、秋田県の僻地医療もこの姿勢を見習うべきだと考えました。2つ目は英語でのアウトプットの重要性です。相手の話の理解ができて、それを深めるということが難しかったです。自分の中に生まれた感想や疑問を伝える練習を日常的に行うことが必要であると考えます。今後は看護の視点・英語を学ぶという姿勢をもって自分の課題に取り組んでいきます。

(太田 友里恵 : Ota Yurie 医学部保健学科3年次)



太田友里恵 (前列左)

留学生イベント

農家民泊 in 横手市

6月6日から7日の日程で農業体験ツアーを実施しました。秋田大学の留学生40名が参加し、横手市内の農家さんの元で田植えなどの農業体験や農家民泊体験を行いました。

初めてだった。そんな経験は。誰かの農家に行って農作業を手伝って、家族ではないが、家族のような感じがするところだった。最初は先生の授業の一部だと思った。しかし、私に横手市という所は一生忘れない思い出になっている。日本には家族がありませんが、また、他の家族に会ったという気がした。幸せだった。韓国ではない他の国に来てそんな感情を感じることができるというのが。彼らとともに農事をしながらも楽しかった。そんな時間を過ごし、同じグループになった留学生たちとも親しくなって、一日がすぐ過ぎてしまった。

そこで食べた物も忘れられない。そこでは日本でだけ食べられるわずかな朝ご飯も作ってくれた。家で感じる事ができたそのような味を感じられた。留学生活の途中の私に力を与えた有益な経験であり、もう一度その機会が私に与えられたら必ず参加してそのような気分を再び感じてみたい。



(許 俊: Heo Jun 教育文化学部 特別聴講学生)

平成27年度春季秋田大学留学生修了記念パーティー

8月6日、29名の留学生を対象に、「平成27年度1期外国人留学生修了記念パーティー」を実施しました。留学生のみなさんが日本語・日本文化の習得、大学生活や地域社会との交流を通してたいへん有意義な経験を得たことを、特別聴講学生代表のチョウイキさんの挨拶から窺い知ることが出来ました。修了生のほかに在学学生や教職員、留学を支援して下さる団体の方々および近隣住民も参加し、留学生の修了を祝いました。

修了生の今後の更なる活躍を心より期待しています。



(国際課留学生交流・支援担当)

夏の旅行

7月4日と7月5日の1泊2日の日程で、外国人留学生14名が参加し鹿角市、仙北市、大仙市への見学旅行を実施しました。2日間の旅行を通じて、普段話す機会のない学生同士の交流も深めたいへん有意義な旅行になりました。

On July 4th and 5th, some international students of Akita University went on a bus trip to Osarizawa Mine, Nyuto Onsen, Kakunodate to visit the Samurai Residences, a Ceramic class and a Sake Brewery. This trip to the Semboku region in Akita was an incredible experience to learn a little bit about Japan's roots: nature and people.

Our first stop was the Osarizawa Mine, what an interesting experience it was. The chemical pools definitely were a highlight. The vaulted structures of the Osarizawa Mine give it the appearance of ancient ruins, and the pools seem temptingly refreshing. But you don't want to dip your hand in because those pools are almost certainly filled with run-off chemicals, the legacy of a gold and copper mine and smelting facility that closed down in 1978. Also I discovered a fun fact at the end: There is actually a secondary mineral called Osarizawaite, it has rhombohedral crystals and a greenish yellow color.

On Saturday night we stayed at the Nyuto Hot Spring Village. We had a lovely dinner at the lodge and relaxed with the tranquility of the Onsen, what a great way to recharge our batteries.

On the next day we enjoyed the beauty and magnificence of Tazawa Lake and after that we had the chance to explore the historical Kakunodate area with its Samurai Residences, brilliant local crafts, and a few museums located on the same main streets, known as "Little Kyoto", presents a thoughtful, immersive experience for us. It was a nice glimpse of old traditional Japan. Kakunodate is a great stopover and route between Tazawa Lake and Akita.

We had a special lunch at Nishinomiyake, after that we made ceramics and visited a Sake Brewery. It was indeed a great weekend and the memories will stay us forever. Thank you so much.



尾去沢鉱山の見学

(Natalia Cardenas Soliz: 工学資源学研究所 博士前期課程1年)

秋季留学生オリエンテーション

9月24日、国際交流センターでは新留学生を対象に、「平成27年度2期秋田大学外国人留学生オリエンテーション」を実施しました。キャンパス生活をする上で必要な施設や手続き等のほかに携帯電話の契約やホストファミリーについての説明が行われ、新留学生は熱心に耳を傾けていました。

オリエンテーション終了後は、大学会館を会場に近隣住民を招いての歓迎会を行いました。秋田大学サークル"Borderless"の学生も参加し、有意義な交流の場となりました。

(国際課留学生交流・支援担当)

北東北国立3大学国際交流 実務担当者情報交換会

2015年6月19日に岩手大学にて北東北国立3大学国際交流実務担当者情報交換会が開催されました。情報交換会には、岩手大学、弘前大学、秋田大学で国際交流にたずさわる教職員が参加し、各大学の現状報告、共同プロジェクトの提案などが行われました。

今回は、海外留学・研修プログラム合同派遣の具体的対応、留学生向けの広報活動計画、ムスリム留学生のためのハラールフードの提供・お祈りの場所の設置などが議論されました。本会議は、格式ばったものではなく、各大学の教職員が、ざっくばらんに問題や課題を議論しあえるところに特徴があります。今後も3大学の知見を共有し、発展させながら国際化を推進していけたらと思います。

(市嶋 典子 : Ichishima Noriko
国際交流センター 准教授)



中国大学生訪日団の受け入れ

7月3日(金) 中国内陸部の学生90名が、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環で本学を訪問しました。

「JENESYS2.0」とは、2007年より安倍総理が実施した「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)」の後継事業で、アジア大洋州諸国との間で3万人規模の青少年交流を目指しています。

はじめに、60周年記念ホールにて、総勢100名の学生と引率職員へ、大学の概要説明を行いました。本学への入学を検討している学生から、具体的な授業内容についての質問などもありました。

次に、学生達は6つのグループに分かれ、本学の学生及び職員と懇談しました。日本語を専攻している学生達にとって、大変、貴重な経験になりました。

中国人学生達は、県庁や角館にも訪問し、充実した秋田県での滞在となりました。



(佐藤 哲也 : Sato Tetsuya 国際課長)

退任のあいさつ

国際交流推進役を拝命頂いたのが、つい先日なのですが、9月30日に任期を終了いたしました。月並みですが、瞬く間に時が過ぎたように感じます。皆様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

自然に恵まれた秋田の生活は楽しく、来秋したばかりの留学生とともに訪問した小安峡や八幡平雪の回廊は、彼らの母国では決して見るできない風景でしたし、上桧木内の紙風船上げ、火振りかまくらや六郷の竹打ちは冬祭りの奥深さを感じさせるものでした。秋田は竿灯が有名ですが、伝統に育まれた多様な祭事は貴重な資産だと思います。

また、ABEイニシアティブや資源の絆プロジェクトを通じた研修員の受入れが始まり、現在14人が修士課程で学んでいます。帰国後は秋田、日本をつなぐ架け橋となってくれることが期待されておりますので、皆様からの応援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、秋田大学のますますのご発展を祈念しております。

(倉科 芳朗 : Kurashina Yoshiro 国際交流推進役)



専任教員よりひとこと

平成27年4月1日から9月11日までの約5か月半、育児休暇を取得しました。家族と過ごす時間がとれたことはもちろん、下の娘は児童館、上の息子は近所の公園や幼稚園の体験入園で一緒に遊ぶことによって子供の世界を知ることができました。友達の名前、ママ友等々、今後、家族とコミュニケーションを取る上での共通の情報が多く得られました。育休の取得にあたっては本センターのセンター長である山本文雄理事が積極的に進めてくださいました。そして同僚のみなさんの理解と協力のもと、育休を取得することができました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。息子が親になるころ、男性の育休取得率は何%になるのでしょうか。

(佐々木 良造 : Sasaki Ryozo 国際交流センター 助教)

■国際交流協定校情報

大学間協定 (合計29ヶ国・地域 : 57大学等) 部局間協定 (合計9ヶ国・地域 : 17学部等)

(2015年8月17日現在)

■秋田大学の留学生数

合計229名 学部生 : 89名 大学院生 : 64名 交換留学生・研究生等 : 76名

(2015年10月1日現在)